



～だれもが、安心して、豊かに生活できる～

12月

副校長 池長 健吉

2022年も明日からいよいよ最後の月となります。校庭の木々の葉も残り少なくなり、冬の訪れが感じられるようになってきました。

さて、12月は「人権週間」があります。日本では、1949年から毎年、人権デーを最終日とする1週間（12月4日から12月10日）を「人権週間」と定め、人権尊重思想の普及高揚のための啓発活動が展開されています。横浜市では、『「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指して』と「人とのつながりを学び、自分も他の人も大切にできる子どもの育成」の2つの理念で人権教育を進めています。

今年、本校では11月に人権週間を設定し、その取組として義肢装具士を目指す佐々木穂果さんをお招きして、各学年にお話をさせていただきました。義肢装具士という職業を初めて知る子どもも多く、佐々木さんがこの職業を目指すきっかけとなったお話や自分が義手や義足をつくることで多くの方がスポーツや車の運転ができるようになるというお話に、興味深く聞き入っていました。お話の後にはそれぞれが振り返りを書きました。書かれていた言葉はそれぞれでしたが、義手や義足を利用することで不自由を感じていた方々がみんな同じように生活できるよさの実感や、それを利用したりその生活を支えたりする方々への尊敬の思いが共通しているようでした。各学年の廊下などに掲示してありますので、保護者の皆様はご来校の際にご覧ください。

話は変わりますが、私は気に入っているCMが一つあります。「たたくより、たたえ合おう」というフレーズを聞いたことがある方もいるでしょう。コンビニエンスストアのレジで、高齢の女性が支払いに戸惑っているときに、後ろに並んでいた男性が怒っているのかと思ったら、「焦らなくていい」とまさかの優しい言葉を掛けるものです。その中には、「みんな違って当たり前」「一人ひとりにリスペクト」という言葉も出てきます。昨今、自分と異なる立場や考えに対して不寛容な行動をとってしまうことが社会的な問題にもなっています。このCMにもあるように、自分と異なる立場や考えの人にも、「みんな違って当たり前」という気持ちをもって相手を理解して受け入れていくことで、よりより人間関係が築いていけるのではないのでしょうか。また、自分と異なるものを受け入れようとすることは、自分を成長させ自分を大切にすることにもつながります。

ご家庭でも、「決めつけるのではなく、一人ひとりがもつ多様な個性を見つけて認めていくこと」について話し合ってみてください。